

新潟県私立保育園  
・認定こども園連盟  
est. 1956



(写真：新潟私保連ウェブサイトから)

「保育者見守りシミュレーション・ソフト Watching Area」は、「新潟県 1 歳児 3 対 1 研究」に活用しつつ、かつ全国で研究や実践にお使いいただくため、新潟県私立保育園・認定こども園連盟加盟園から御寄付を頂戴し（119施設、12月25日現在）、製作しました。

- ・ 自園の屋内、園庭等を模して、より効果的な見守りを検討するために
  - ・ 事故時、ひやりはっと時の検討に
  - ・ 事故報告書用の原図として
- …など、ご活用ください。

このソフトウェアの公開にあたって、本研究と本ソフトウェアについて、同連盟の先生方からメッセージをいただきました。

昭和22年、児童福祉法制定の時代から社会情勢は大きく変わりました。保育園・認定こども園が子育てを担う役割も多様化してきました。しかし、子育ては人の力によるものだということは変わりません。一人でも多くの保育者が携われる仕組みとなり、保護者はもとより、保育者も地域社会も子育ての喜びを得られるように、と願います。

(連盟会長、みどりこども園園長 伊東一男)

1歳児は、人としての様々な成長にとって最も大切な時期です。職員配置では2歳児並みです。育休明けで1歳に達した直後の子どもが多く、決して2歳児とは比較になりません。新潟県は人を育む環境下の中で、0歳児と同様の3対1で公立保育園も含めて1歳児保育を行っています。子どもにとって、保育者にとって、保護者も安心できる保育体制を新潟県が実践し、全国に発信しています。

(高志保育園園長 坪井秀和)

園におけるこどもの見守りについては、各園にとっては悩みの種です。今までは、ただ人員を増やすことで対応していたこどもの見守りを、このソフトで視覚的に捉えられるようになりました。ややもすると個人の力量だけに左右されがちな保育を、科学的に検証することで、子どもにとってはもちろんのこと、保育者にとっても安心につながるツールだと思います。

(太陽ゆうゆう保育園園長 高津亮)

(このチラシは、同研究担当グループが製作)